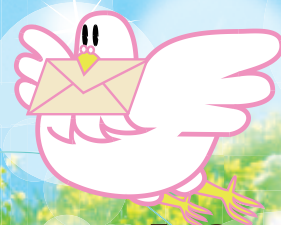


F-mail

福井農林総合事務所だより

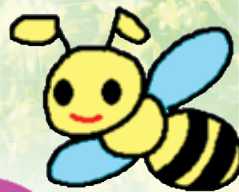


No.40

平成25年2月20日号



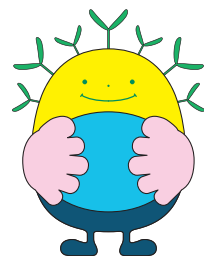
緑と花の県民運動に、 取り組んでいます!



県では第60回全国植樹祭(平成21年)をきっかけとした
県民運動「緑と花のふるさとをつくる運動」をすすめています。
今回は平成24年度の取り組みをご紹介します。

花いっぱい運動推進員さんとの連携

地域で花の活動をされている方を「花いっぱい運動推進員」
として委嘱し、花活動の輪を広めています。
活動の詳細は県ホームページにてご覧ください
(<http://midoritohana.pref.fukui.jp/>)



花の拠点づくりの推進

県内外の来訪者を花でおもてなしするために、花の拠点づくりを推進しています。
平成24年度は県内有数の観光地であり、れんげ米の生産がさかんな
永平寺町においてれんげの種まきを支援しました。
れんげの咲く春が楽しみです

あなたの「ひとつぶ運動」教えてください!

福井農林総合事務所林業部では
ささやかでも、多くの人に花いっぱい運動に参加してもらうため、
「ひとつぶ運動」を提唱しています。

例えば、当事務所のF職員は、趣味のランニングを利用し、
「1km走るごとに1粒の種を蒔く」という取り組みを実践中!
2012年は計約4000km(=4000粒)を達成しました。
(蒔くのは2013年春の予定)

すてきな取り組みはFmailで紹介しますので、皆さまの考えた取
組みを裏面記載のメールアドレスまでお寄せください!



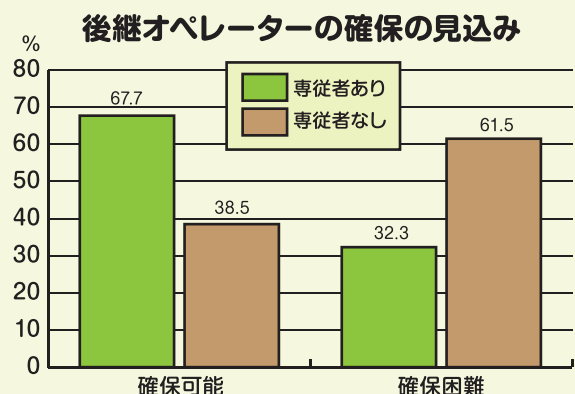
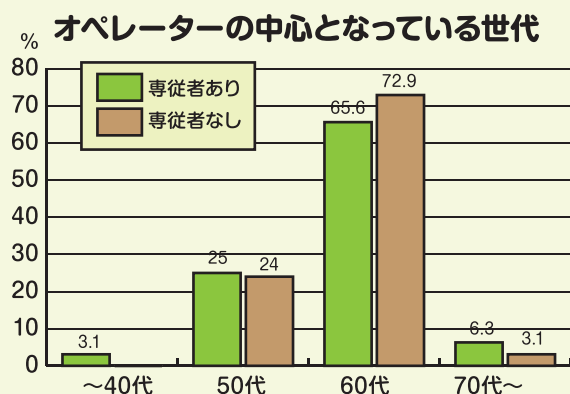
5年後の地域農業の姿を考えてみませんか ～人・農地プランの作成について～

人・農地プランとは、
人と農地の問題を解決するための「**未来の設計図**」です

☆集落・地域が抱える、農業後継者育成、農地集積等の問題解決のため、集落・地域における話し合いによって、

- ◎ 今後の中心となる経営体(個人・法人・集落営農組織)は、誰か？
 - ◎ 中心となる経営体へ、どのようにして農地を集めるか？
 - ◎ 中心となる経営体とそれ以外の農業者(兼業農家、自給的農家)を含めた、地域農業のあり方として、生產品目、経営の複合化、6次産業化を、どう展開するのか？
- 集落・地域として、5年後の姿を考えていただき、具体化するものです。

昨年夏、管内の法人を含む生産組織の後継者の状況を伺った結果は次のとおりです。



オペレーターの中心となっている世代は、60代が中心でした。

また、専従者のいない組織と、いる組織での大きな違いは、後継者の確保見込みの状況でした。

後継者は、今日探し始めて、明日見つかるということはまず厳しいのが現状です。

そこで、各集落において農家および農地所有者が地域、地区の将来像を話し合い、持続性のある地域農業の姿を具体化し、その歩みを確実なものにする手段として「人・農地プラン」を策定していただきたいと思います。

人・農地プラン策定の流れ

現状把握のための、アンケートの実施



第1回
集落検討会
(地域、中心となる経営体、生產品目を決定)

集落検討会の様子



プラン策定
(各市町における認定)



第2回
集落検討会
(圃場団地ごとの、生産計画を策定、余剰機械類の処分方法の決定)



農業基盤整備促進事業（農業体質強化基盤整備促進事業）

趣 旨

農地の大区画化・汎用化等の整備基盤により、担い手への農地集積を加速化し、農業の構造改革を推進することが不可欠である。また、今後、耐用年数を迎える施設が急激に増加することから適切な保安全管理が求められている。このため、農地・農業水利施設等の整備を地域の実情に応じて実施し、農業競争力の強化を図るものである。

事業主体

◆市町、土地改良区、農業協同組合、農地・水・環境保全組織（広域組織）

事業の主な内容

定率助成

（地域のニーズを踏まえた基盤整備による農業の競争力激化）

◆対象事業

- ・農業用排水施設：農業用排水施設の新設、廃止、更新
- ・土層改良：客土、混層耕、除礫、土壌改良
- ・区画整理：農用地の区画形状の変更
- ・農作業道：アスファルト舗装等、農作業道の変更
- ・農用地の保全：鳥獣被害防止施設（単独実施は不可）
畦畔の補修・補強、法面保護

◆補助率

- ・国：50%（中山間 55%）、地元：50%（中山間 45%）

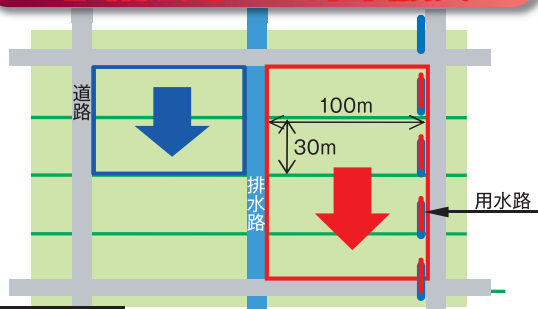


農道舗装

定額助成

（整備済みの農地の高度利用を迅速・安価に図るための簡易な整備）

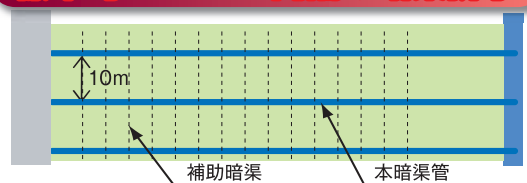
畦畔除去等による区画拡大



助成単価

- ↓ 水路の変更を伴わない拡大：10万円/10a
- ↓ 水路の変更を伴う拡大：20万円/10a

標準的（10m以下）間隔の暗渠排水



助成単価 暗渠排水：15万円/10a



区画拡大



暗渠排水

事業の対象となる要件

- ◆現況地目が普通畑、転作田、田で農業振興区域内の農地であること
- ◆1地区の事業費が200万円以上、受益者数2者以上であること
- ◆暗渠排水については、2本以上の本暗渠管を整備すること
- ◆担い手への農地利用集積の向上、高収益作物の導入・生産拡大、担い手の確保・育成などの取組を行う地域であること

事業上必要とされる成果品

- ◆支出の根拠となるものが必要になります。

これからの土づくりはケイ酸と腐植含量に注目

～管内土壤の最近10年の変化とエコファーマーによる土づくり～

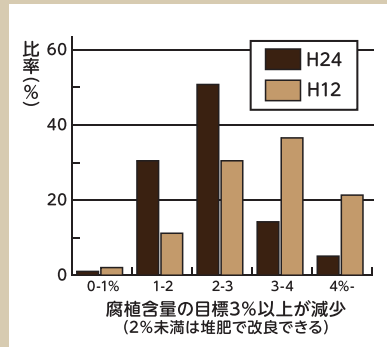
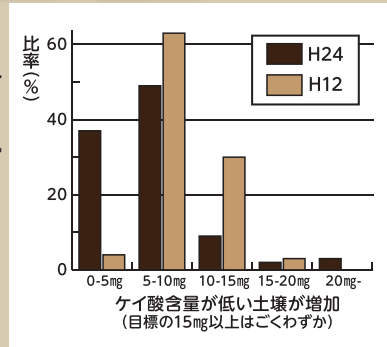
平成24年産米は作況100の平年作で、福井地区の1等米比率は約94%と高く、適期植えによる夏の高温に強い稲づくりの成果といえます。平成25年産米からは玄米タンパク含量による区分集荷やエコファーマー用肥料への切り替えが進む予定です。

ところで、平成22～24年にかけて管内各JAが約700カ所で行った水田土壤の化学分析結果によると、平成12年の調査に比べてケイ酸や腐植含量の低下が見られます。

平成12年の調査でも福井地区のケイ酸含量は目標より低めでしたが、今回はさらに低下しています。水稻は生育中吸収したケイ酸を表皮等に蓄積し、これが病害虫予防や倒伏防止、食味向上に有効とされています。ケイ酸は河川水から供給されますが、九頭竜川、日野川はケイ酸含量が少ないため土壌改良資材で補う必要があります。

また、腐植とは土壤中の有機物のことで、これが分解して出る地力チツソは水稻が吸収するチツソの5～6割を占めます。腐植含量の低下は地力チツソ減少につながり、施肥量を増やさないと収量が確保できなくなりますが、施肥量増加は玄米タンパク含量を高めて食味低下につながります。

現在進めている水稻のエコファーマー化では稲わらを燃やさずに土にすき込むことを要件としており、これは腐植含量を維持するのに有効な技術です。エコファーマー化技術では化学肥料と農薬使用回数の2割低減に注目されますが、食味の向上や気象変動に対応する技術としては土づくりへの地道な取り組みが重要です。



農業経営の継承を考える

—高志地区農業活性化推進大会にて—

福井農林総合事務所、高志農業改良振興会では、地域農業を維持発展させていくためには、認定農業者や集落営農組織等での農業経営継承が重要な課題となってきたため、平成24年12月8日(土)にJA福井市本店大ホールで「農業経営継承」をテーマに高志地区農業活性化推進大会を開催しました。

大会では、集落営農組織の中で先進的に農業経営継承に取り組まれている滋賀県甲賀市(農)酒人ふぁ～むの福西代表理事組合長より、集落営農の理念・集



(農)酒人ふぁ～む 福西代表理事組合長の講演

落全員が関わる運営方法・役員の定年制等取組みについて講演していただきました。その後、福井地区管内で先進的に農業経営継承に取り組まれている生産組織・認定農業者・JAの4事例によるパネルディスカッションを行いました。

参加された100名の農家の皆さんは、農業経営継承について理解を深めるとともに、参加者の中からは早急に農業経営継承に取り組みたいとの声も多くみられ、有意義な大会となりました。



パネルディスカッション

編集後記

まだまだ寒い日が続きますが、日ごとに昼の時間が長くなり春を予感させるこの頃です。春の訪れとともに、豊かな実りのための大切な準備の時期になります。これからの土作りについて掲載しています。参考にしてください。

発行: 福井県 福井農林総合事務所
〒910-8555 福井市松本3丁目16-10 (福井合同庁舎内)
TEL 企画振興室(直通) 0776-21-8201
農業経営支援部(直通) 0776-21-8207
林業部(直通) 0776-21-8213
農村整備部(直通) 0776-21-8216
E-Mail: fuku-noso@pref.fukui.lg.jp